

「第2次高松市創造都市推進ビジョン（案）について」のパブリックコメント実施結果

1 案件名

第2次高松市創造都市推進ビジョン（案）について

2 意見募集期間

平成30年1月15日（月）から2月5日（月）まで

3 意見募集結果

12件（4人）

4 いただいた御意見の要旨とそれに対する本市の考え方

※提出いただいた御意見は、趣旨を変えない範囲で、簡素化または文言等の調整をしています。

番号	御意見（要旨）	市の考え方
1	<p>事業の実施主体(主催)が香川県か高松市かを明確に区別して記載されたい。</p> <p>「瀬戸内国際芸術祭」は香川県主催で高松市も関与したが「瀬戸内国際芸術祭来場者数」13.4%は香川県人口の40%以上を占める市にしては成果が乏しいのではないか。</p>	<p>御指摘のとおり、事業の実施主体につきましては、香川県主催の事業と本市主催の事業とを明確に区別して記載してまいりたいと存じます。</p> <p>「瀬戸内国際芸術祭来場者数」における「13.4%」の数値につきましては、瀬戸内国際芸術祭来場者アンケート調査における外国人の割合を表す数値となります。</p>
2	<p>評価の指標は、ストラクチャ、プロセス、アウトプット、アウトカム、インパクト指標を作成し、計画期間6年間の間に最低1年毎に評価して進捗管理し、PDCAサイクルでスパイラルアップされたい。</p>	<p>本ビジョンにおきましては、本市が目指す創造都市の将来像の実現に向け、各種の取組（第4章参照）を推進していく上で、成果指標を設定し、PDCAサイクルによる進行管理を行いながら現況値よりも向上を目指してまいりたく存じます。</p>

3	<p>MICE Meeting、IncentiveTravel、Convention、Exhibition(Event)については、経済波及効果だけでなく観光庁が作成した「MICE 開催による地域別経済波及効果測定のための簡易測定モデル」(http://www.mlit.go.jp/kankocho/page07_000018.html)を活用するなど事業費用を計上されたい。例えば「G7 香川・高松情報通信大臣会合」は、警察官の超過勤務費用・道路封鎖が市民に及ぼした影響など負の部分の考慮して波及効果を示されたい。</p>	<p>本ビジョンは、産業、ものづくり、観光、文化・スポーツ、国際交流などに関する施策を一体的に推進しながら、高松の都市ブランドイメージの向上を積極的かつ効果的に図り、「瀬戸の都・高松」の魅力を全世界に発信していくための、総合的かつ基本的な指針でございます。MICE 振興事業につきましては、「高松市 MICE 振興戦略」にて MICE 振興の方向性を設定し、戦略的に MICE 振興を推進しております。</p>
4	<p>医療・介護等も産業であり、「創造都市」の条件に照らし項目に包括することに矛盾がないと思われる。この計画は、創造都市推進局だけでなく、各部局が組織横断的に連携・参画し、高松市の政策として取り上げる課題と考えますがいかがですか。</p>	<p>御指摘のとおり、創造都市の推進につきましては、創造都市推進局を中心に、柔軟かつ横断的に全市を挙げて取り組んでいくものでございます。本ビジョンの見直しを進めていく上で、医療・介護等の分野におきましても、創造都市の条件を満たす事業については、包括していくよう努めてまいりたく存じます。</p>
5	<p>「屋島活性化事業」は、庵治石採掘のため山肌が露出し国立公園瀬戸内海の環境破壊を香川県が許可し、屋島寺の土地所有権問題など解決すべき課題が多く、高松城跡・屋島城跡の復旧も高松市教育委員会が深く関与し、国・香川県・高松市・土地所有者及び土地利用者の了解を得ながら、関係部局が連携し一丸となって取り組むべきである。</p>	<p>御指摘のとおり、屋島活性化にあたっては、関係部局が連携し一丸となって取り組んでいくものと存じます。</p>

6	<p>本ビジョン案の上位計画である第6次高松市総合計画においては、現在第1期まちづくり戦略計画(H28-30)期間中にあり、その中に「まちづくりの目標」や「重点取組事業」も定められているが、本ビジョン案に記載の取り組み方針や事業と重複・類似の印象がある。上位計画との関係性をもう少し整理し、重複・類似のものを再整理するか、本ビジョン案作成に替えて、第2期以降のまちづくり戦略計画に本ビジョン案の内容を盛り込んでいく方が良いのではないか。</p>	<p>まちづくり戦略計画は、高松市総合計画基本構想に掲げる本市の目指すべき都市像「活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」を実現するべく、6つのまちづくりの目標達成に向けて取り組む主要な施策の事業などについて、実施年度・事業量などを具体化した短期的な実施計画であります。本ビジョンは、第6次高松市総合計画を上位計画とした、本市の創造都市を推進するための総合的かつ基本的な指針であることから、高松らしい創造都市の実現のための各種取組・事業は、まちづくり戦略計画にある施策・事業と一部において重複・類似するものとなりますので、御理解を賜りたいと存じます。</p>
7	<p>本ビジョン案自体の整理の仕方については、大きな問題はないように思うが、やや散漫で相互の関係性が分かりにくく、特に第3章の3の戦略と4の創造的アプローチが、第4章の「こども・工芸・食・交流」という4つのプロジェクトにどのようにつながっているのかが分かりにくく、唐突感があると思われる。</p>	<p>第3章3「実現するための戦略」では「魅力にあふれ、人が輝く創造都市」の実現のための3つの戦略を打ち出し、4「実現するための創造的アプローチ」では、施策・事業を実施する上で、「場」・「人材」・「編集・発信」の3つの視点に着目しています。これらを踏まえながら、第4章1「事業体系」では、本市に存在する創造的な取組を4つのプロジェクトに分類し、個別に紹介しております。</p>
8	<p>第4章の取り組み事業の多くは、大半が既存事業の継続のように思うが、過去の事業実績を踏まえた見直しや新たなアイデアの付加に言及されても良いのではないか。</p>	<p>第4章の各種取組の内容につきましては、今回のビジョン改訂にあわせて、これまでに実施している事業に加えて、新しい事業についても時点修正を行った上で掲載をしております。</p>

9	<p>創造都市推進を担う人材の確保・育成は、本ビジョン実現のため継続して取り組むべき最重要課題であり、その意味で本ビジョン案において次代を担う「こども」に着目していることは非常に良いと思うが、もう少し間口を青少年世代まで広げた範囲としても良いのではないか。さらに、長期的には確保・育成した人材に如何に地域に定着してもらい、創造都市推進の主導的役割を果たしてもらおうかといったことまでイメージできるビジョンが描ければなお良いものになると思われる。</p>	<p>次期ビジョンにおいて、より着目する「こども」につきましては、その範囲が青少年世代を除くものとして限定されているものでもなく、今後、本ビジョンの見直しを進めていく上で、創造都市推進の主導的な役割を担う人材育成等の事業が「こども」プロジェクトに位置付けられる可能性があるものと存じます。</p>
1 0	<p>各事業を漏れなく効果的に推進していくことは人材・財源等限られる中、容易ではなく、県や他の市町あるいは民間諸団体の計画・施策と連携・協働・役割分担できるものがないかも十分検討いただき、効果的かつ効率的にビジョンを推進できるような工夫も必要と思われる。</p>	<p>第4章2「ビジョンの推進」の項目にも記載のとおり、創造都市推進のためには、行政だけでなく、民間においても強力な推進エンジンが求められ、創造的アプローチによりプロジェクトに取り組む多数の市民団体の創出・育成や、民間と行政の若手が交流し、意見を出し合えるような交流の場を作り、生かしていくとともに、民間から出たアイデアを活用する仕組みづくりに努めてまいります。</p>
1 1	<p>このビジョンは創生総合戦略に示された方向で考えられており、大変よく考えられている。</p> <p>ミュージック、アートフェスティバル、瀬戸芸、観光推進等、知名度が既に上がっているものもあれば、屋島なども含め、歴史や豊かな風土など、宣伝材料はたくさんあり、さらなる材料の発掘・情報発信をすべきである。</p> <p>これにより訪れる人、または定住しようとするIターン・Uターンの人たちの増加が期待できる。そうした人々も、もとからの住民も快適に過ごせるようにすることが、効果が上がる基礎として最も大切だと思われる。</p>	<p>次期ビジョンにおいても、産業、ものづくり、観光、文化・スポーツ、国際交流などに関する施策を一体的に推進しながら、高松の都市ブランドイメージの向上を積極的かつ効果的に図り、「瀬戸の都・高松」の魅力を全世界に発信してまいりたく存じます。</p>

1 2	<p>わかりやすい表現の仕方等であり、嬉しく思う。音楽活動が 発展していくことを望み、国内外の管弦楽団等との交流もある と良いように思う。</p>	<p>本市が目指す創造都市の将来像の一つである、『住民と来訪 者が一緒になり、地域資源の再発見と活用を通じて、その土地 ならではの「クリエイティブな暮らし」がたくさんあるまち』 を目指してまいりたく存じます。</p>
-----	---	--

※ ビジョンの内容に直接関連しない御意見は掲載していません。